



広大な平塚事業所



桜井裕士主査



前田仁志課長

電線メーカー 工場訪問レビュー

古河電工の100%子会社である古河電工産業電線(本社=東京都荒川区)は、エネルギーインフラ統括部門/産業電線・機器事業部門に属し、主に産業用電線の製造・販売を担っている。主要生産品目は、産業用電線で、建設工事用電線をはじめ、特別高圧EPCOM絶縁ケーブル・耐

熱電線・キャブタイヤケーブル・機器配線用電線・太陽光発電用ケーブル・その他特殊機能電線・電線ケーブル用接続材など多岐にわたる。電線以外に防水ブレイカー(ジョイントユニット)なども生産している。同社の設立は05年だが、神奈川県平塚工場は1966年創業と約57年の歴史を持つ。3000人の従業員を抱え、平塚のほか九州にも生産拠点を構える。

平塚工場は、古河電工の平塚事業所の敷地内にある。同事業所は、28万3千㎡の敷地面積に従業員1千人を擁し、年間9千300億円の売り上げを誇る同グループの一大拠点である。今回行った「技能訓練センター」は、古河電工産業電線の平塚工場内にあり、同社が注力する「らくらくアルミケーブル」は、アルミ導体を柔軟性高く、架橋ポリエチレン絶縁体で覆ったケーブルだ。従



技能訓練センター全景

古河電工産業電線は低圧産業用電線の老舗メーカーだ。製造拠点である平塚工場は古河電工グループの平塚事業所内にあり、操業57年の歴史を持つ。同社は、アルミ導体ケーブルに注力しており、そのアピールと導入企業の技術研修を目的とした技能訓練センターを同工場内に開設している。近年、高い作業性のアルミ導体は電線業界でも注目されており、現場の導入も進んでいる反面、従来の銅ケーブルとは異なる規格のため、研修も必要となることも事実だ。小紙ではセンターを訪れ、工場を見学するとともに、実際に訓練センターを体験した。

アルミ導体ケーブルに注力・拡販 技能訓練センター開設でアピール

訓練センターの実習体験訓練センターは、端末処理の講習だけでなく、ケーブル延伸や盤への接続といった作業も体験できる設備を備えている。実際に施工を担当する電気工事業者だけではなく、建物の施主、設計者も多数訪れる。らくらく

古河電工産業電線・平塚工場

は端末の被覆を剥いで同時にフラッシングができる「アルミらくらくソケット」などの専用工具が用意されている。アルミ導体の端末接続に必要な知識を座学で学んでから作業実習を行う。説明、座学、体験をはじめ、作業実習のプログラムを実際に記者が体験

れる。実習素材のように短く切られたケーブルではなく、長く重い線で作業をする実際の現場では、その作業性の高さが大きな差になることは想像に難くない。

また、作業時間短縮以外にも、専用工具の使用で接続の確実性が向上したり、柔軟性の高さにより、丁寧できっちりしたケーブルの配線ができ、きれいな作業は後々のトラブル発生を最小限に抑えることに繋がるのではないかとと思われる。さらに、副次的なメリットとして、セキュリティ面の向上が挙げられる。昨今、人目の届かないメカソーラーや廃業した建築物などで、買取業者に売る目的の、銅導体ケーブルの盗難が頻発している。らくらくアルミケーブルは見た目の区別のため、通常黒い被覆の銅導体ケーブルと違い、鮮やかな青の被覆となっている。アルミの相場は銅より安いいため、青い被

覆のアルミケーブルは盗難に遭いにくい効果があるという。今回、訓練センターの案内を引き受けていた、同社の前田課長と桜井主査は「被覆の青色になぞらえて、日本全国を青に染め抜きたい」と語る。その言葉にも訓練センターへの注力と、らくらくアルミケーブルへの大きな期待が感じられた。

